

第3回魅力ある県立学校づくりに向けた懇話会について

1 開催日時・場所

令和3年12月21日（火） 午前9時30分から午前11時10分まで
於：7-A-2会議室

2 出席委員

萩野委員，廣瀬委員，前田(晶)委員，久永委員，岩越委員，
前田(光)委員，川島委員，太田委員
(鳥丸委員，山本委員，福留委員は欠席)

3 議事の主な内容

協議・意見交換

① 魅力ある高校について

- 高校の一つの役割として、「生徒の居場所を確保」することが求められており，その意味では「充実した学校生活を送れる」ということが位置づけられていることは評価できる。

② 本県県立高校の普通科の魅力化について

- 大学は海外や地域との連携を積極的に行っており，本県でも高校がさらに大学と連携していくことで，普通科の特色ある取組がさらに進んでいくのではないかと。
- 「生徒が地域を知り，課題を発見し，解決に関わる」という探究的なカリキュラムを取り入れる際には，「どのようなことを学ばせて，それを卒業後の進路などにどう生かしていくか」という視点を持ちながら進めていくことが重要である。
- ESDの取組については，鹿児島県の特色や強みを生かせると思う。世界遺産やそれに関わる観光の仕事など，持続可能な社会の開発とつなげていくことを考えれば，学校の特色あるカリキュラムの開発につながられる。
- 学び直しの学校については，子どもたちに手を差し伸べるような取組・指導の在り方については参考になる。何らかの理由で学べなかった子供たちが再チャレンジする場があるのはよいことだ。

- 大学入試改革の方向性が見えない中では、学科を新たに設けるよりも、柔軟に普通科内にコースを作って魅力化を図った方がよいのではないか。
- 広域通信制を希望する生徒が多くなってきており、中学生が学び直しの学校に魅力を感じるかなどについて、慎重に考える必要がある。
- 中学生の多くは、迷いながら高校を選んでいる。このことから、新しい学科を作って高校入学時に選択させるよりも、高校入学後にコースを選択する方法が、中学生にとっては選びやすいのではないか。
- 地域などと連携協働する場合に、教員だけでは負担が大きすぎる。県がコーディネーターを配置し、スムーズに連携できる体制を作る必要がある。
- 鹿児島県は小規模校が多い。学科を作るよりもコースという形で様々なニーズに対応するのが現実的だ。学科よりもコースの方が設置のハードルが下がり、よりフレキシブルに対応できる。
- 学びを多様化することも重要だが、高校が公教育として「市民性教育（地域の担い手の育成）」に取り組むことが重要。そのために、「地域の担い手であることを自覚させる」とともに、「専門的スキルだけでなく、汎用的なスキル」を育成することが必要となってくる。
- 多様な学びを進める一方で、数学でも物理学でも化学でも、1点突破型の人材育成に配慮した教育も必要ではないか。

③ 本県県立高校の専門学科の魅力化について

- 企業等と連携し、生徒に最先端の学びを体験させるためにも、高校と経済界などが連携を強める働きかけを、それぞれの立場で進めるべきだ。
- 地元企業を知らない方が多いと思うので、高校と企業がもっと連携し、生徒や教員が地元企業の理解を深めていくことが必要ではないか。
- 専門学科に最先端の機器を導入するために財源が必要だ。その確保に向けて努力してほしい。更新できない場合、役立つのがコンソーシアムであり、企業連携等で寄付や機材の提供等をお願いなどもできるのではないか。

- 他県の事例は、その地域の本質や理解に迫るもので、体系的なものになっている。生徒が大人が学び続けている姿を見ることで、生き方の学びにもなっているのではないか。
- 専門高校においては、学科の名前が変わったりカリキュラムが変わったときに、中学校の先生方があまり理解されず、進路指導が難しくなるケースがある。より細かく複雑化するのであれば、中学校の先生方に分かりやすく情報発信してほしい。
- 専門学科の在り方については、取組も盛り沢山で、現状で良いと思う。1つ欠けている点を挙げるならば農業、商業、工業、水産全てに当てはまる「起業家精神の醸成」と「データサイエンス基礎力育成」をしては如何か。
- 他県と比べても、鹿児島は生徒一人一台端末の配備が遅れており、他県の配備計画などを参考に、取組を進めてほしい。